



原油が4日ぶり反発、需要見通しに安心感

14日の国内商品先物市場で、原油は4営業日ぶりに反発した。13日発表の5月の米消費者物価指数（CPI）の前年同月比の上昇率が鈍化し、米連邦準備理事会（FRB）が14日まで開く米連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げを見送るとの観測が強まった。利上げ継続が景気を冷やして原油需要が伸び悩むとの警戒が後退し、買いが入った。

石油輸出国機構（OPEC）が13日公表した月報で、2023年の世界の石油需要見通しが前回とほぼ同水準の需要予測を示した。中国景気への懸念がくすぶるなか、見通しが事実上据え置きとなったことで原油先物の買い安心感が出たとの見方もあった。



OPEC、23年の需要予測維持 年後半の減速には懸念

石油輸出国機構（OPEC）は13日公表した月報で、2023年の世界の石油需要見通しを事実上据え置いた。年後半の世界経済の減速に懸念を示したが、4カ月連続でほぼ同水準の需要予測を維持した。

月報は23年の世界需要について前年比日量235万バレル増の1億191万バレルと予測した。中国を小幅に上方修正したが欧州は引き下げ、合計で5月時点で見込んでいた1億190万バレルからほぼ変えなかった。

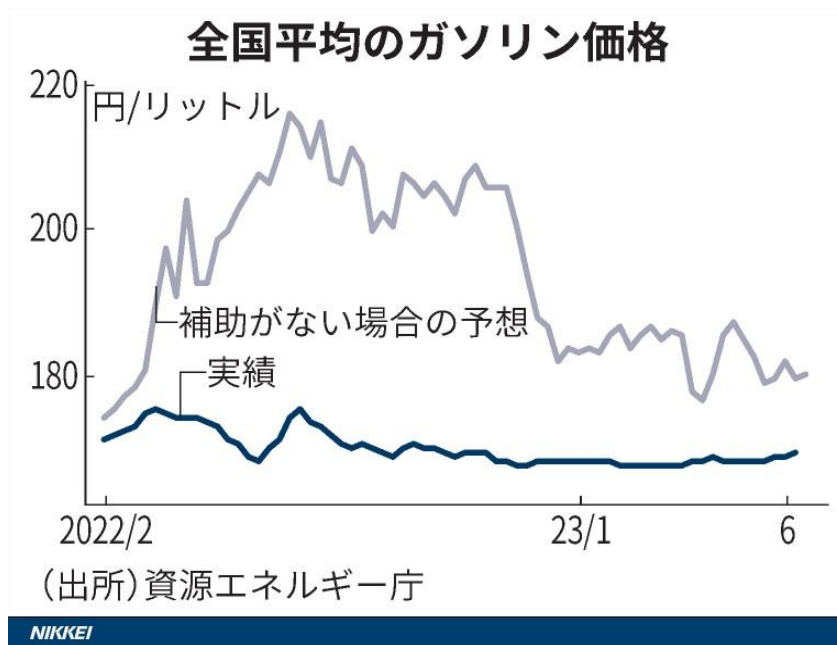
非加盟のロシアなどを加えた「OPECプラス」は今月4日の閣僚級会合で、協調減産の枠組みを24年末まで続けると決めた。同時にサウジアラビアは7月に日量100万バレルを自主的に追加減産すると表明したが、原油相場は上値の重い展開が続いている。

OPECは月報で「高インフレや利上げ、労働市場の逼迫のなかで23年後半の経済成長を巡る不確実性が増している」とした。ロシアのウクライナ侵攻を念頭に「地政学的な紛争がいつどう解決されるかが不透明だ」とも指摘した。



ガソリン0.6円高169.3円 4週連続上昇 補助金9.6円に

資源エネルギー庁が14日発表したレギュラーガソリンの店頭価格（全国平均、12日時点）は前週と比べ0.6円高の1リットル169.3円だった。値上がりは4週連続。政府は石油元売りなどに補助金を支給してガソリン価格を抑えている。15日から1週間の補助額は9.6円となる。



政府は2022年1月に補助金を導入し、給油所への卸値を抑えて店頭価格の上昇に歯止めをかけてきた。8～14日分の補助額は10円、価格の抑制効果は9.9円だった。

19日時点のガソリン価格は補助金がなければ180.1円になると見込む。抑制の目標とする168円との差12.1円に補助率80%を乗じた9.6円が15日から1週間の補助額となる。

原油のアジア市場の指標となる中東産ドバイ原油は13日、一時1バレル71.8ドル前後と前週から下落した。原油相場の下落はガソリン価格の押し下げ要因となる。

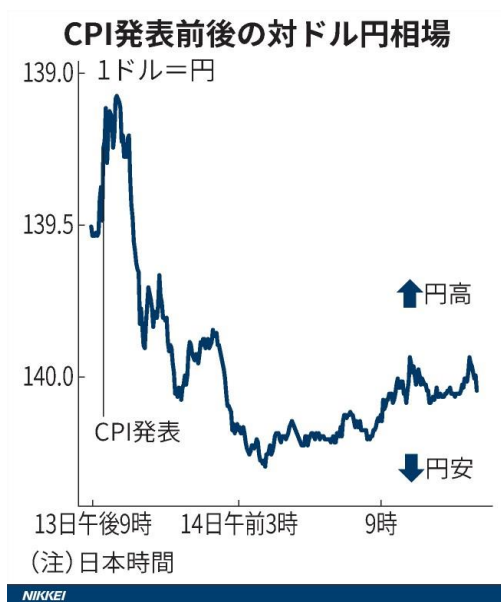


円高阻むリスクオン 円、再び140円台に下落

円相場が下落している。13日の外国為替市場で円は対ドルで一時1ドル=140円30銭台を付ける場面があった。1週間ぶりに140円台まで下落した。米国の物価指標が鈍化基調にある中で円安が進んでいるのが、足元の相場の特徴だ。投資家がリスクを取る姿勢を強める「リスクオン」が円高方向への動きを阻んでいる。

13日発表の5月の米消費者物価指数（CPI）は前年同月比4.0%上昇にとどまり、事前の市場予想とほぼ一致した。市場では「無難に通過した」（みずほ銀行の南英明調査役）との声が聞かれる。米金利先物の値動きから米金融政策を予想する「フェドウォッチ」によると、米連邦準備理事会（FRB）が今月の会合で政策金利を据え置くとの見方は9割を超える水準まで上昇した。

その中でも円安・ドル高が進んだのは「コア指数の高さが意識され、FRBが高い政策金利水準を長期的に維持するとの見方が強まった」（三菱UFJ銀行の大原豪上席調査役）ためだ。FRBの年内利下げ観測が弱まり、日米金利差の開きを意識した円売り・ドル買いが発生しているという。



さらに、株式市場の動向が為替市場にも影響しているという指摘がある。

米CPIの発表を受けて、米ダウ工業株30種平均など主要な株価指数はそろって上昇した。米経済がインフレを抑制しながら景気後退を避けられる「ソフトランディング（軟着陸）」への期待が高まった。米景気が軟着陸するのであれば、米企業の利益の下振れは避けられるとの読みだ。



ウメモト インフォメーション



2023年 6 月 14 日 担当 ジョン

株式市場が楽観的なムードに包まれて投資家がリスクを取る姿勢を強めると、伝統的に「低リスク通貨」とされる円には下落圧力がかかりやすい。「これまで安全資産として買われていた米国債が売り戻されている」（クレディ・アグリコル銀行の斎藤裕司シニア・アドバイザー）。リスクオンによる米株と、米国債売りによる米金利の上昇が同時並行的に進行し、ドル買い・円売りを誘っているというわけだ。

15～16日には日銀が金融政策決定会合を開く。QUICKが実施した6月の外国為替市場調査によると、今回の会合で金融緩和を修正するとの予想はわずか10%にとどまる。日本と海外主要国との金利差は開く方向に働くとみる市場関係者が多い。

23年はもともと米国の利下げ転換と、日銀の金融緩和の修正が重なり円高が進むと読む投資家が多かった。足元ではその実現性に疑問符がつき、欧州や英国では市場の想定以上に利上げが続く公算が大きい。投資家は円高シナリオの修正を迫られる可能性がある。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	5/2～5/8	74.56	▲ 4.95	137.41	1.84	64.44	▲ 3.35
	5/9～5/15	75.13	0.57	136.07	▲ 1.34	64.30	▲ 0.14
	5/16～5/22	74.49	▲ 0.64	138.26	2.19	64.77	0.47
	5/23～5/29	75.87	1.38	140.46	2.20	67.02	2.25
	5/30～6/5	73.20	▲ 2.67	140.68	0.22	64.77	▲ 2.25
	6/6～6/12	74.94	1.74	140.54	▲ 0.14	66.24	1.47
水曜日～ 火曜日	5/3～5/9	73.71	▲ 5.16	136.24	0.01	63.16	▲ 4.42
	5/10～5/16	74.82	1.11	136.21	▲ 0.03	64.10	0.94
	5/17～5/23	74.54	▲ 0.28	138.74	2.53	65.04	0.94
	5/24～5/30	76.13	1.59	140.82	2.08	67.43	2.39
	5/31～6/6	73.01	▲ 3.12	140.55	▲ 0.27	64.54	▲ 2.89
	6/7～6/13	74.63	1.62	140.56	0.01	65.97	1.43

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート